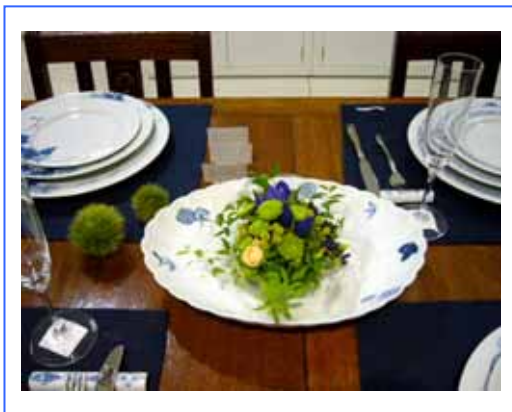


第九拾五号

(特別増刊号)

橋口博之作陶展

3月の日本橋三越展期間中に、半年先の福岡三越展を誘っていただいておりましたが、あっという間に始まってしまいました。今回は『伝統美の彩り』というテーマで、橋口(青花匠)の新作をお届けします。ものづくりのパートナーのひとりであるオーベルジュ「あかだま」のオーナーシェフである中村浩徳氏も25日(土)~26日(日)にかけて下さり、橋口の器に盛り付けて下さいます。どのようにひきつけあうか、食と器の饗宴が楽しみです。



第9期陶芸教室開講式の案内

第9期陶芸教室の開講式を9月2日(日)11時より始めます。簡単なセレモニーですが、朝・昼・夜コースの生徒さん達が一同に集まって顔合わせをする良い機会です。常連さんと新人さんの出会いもあります。今年も田中教頭をはじめ吉丸、梶原大、秋永など口クロ部門は充実した講師陣です。しん窯青花を支えている職人さん達が直接指導する教室も自慢のひとつです。

大有田焼フェア in 日本橋三越の反省

大有田焼フェア in 日本橋三越は、来年第10回展を迎えます。10回という記念展を開催するにあたり、今年の実績を振り返り、傾向と対策を練らなければいけないという主旨で、業界もようやく重い腰を上げました。同じイベントを繰り返すために、毎年プラスワンが必要です。ちょっと高めの有田焼を目指すために。

インターンシップ

7月30日(月)から8月3日(金)まで窯大生、8月8日(水)から10日(金)まで有中生がそれぞれ職場体験学習に来られました。

一年中で最も過酷な労働環境下で不慣れな実習です。しかし、若い青年達にとって初めての職場体験は何もかも新鮮にうつったようでした。また連日35度を超えるような暑さで、汗がしたたり落ちていましたが、それぞれきらきらと輝いていました。

毎年夏休みになると、インターンシップと称して産学の連携で地域学習が行われます。お互い新鮮で若々しい気分を味わえるので、これからも毎年受け入れようと思います。

愛猫タマ逝く

8月8日は父太郎の命日です。翌日9日は兄康正の命日ですので、一緒にお坊さんにお経をあげてもらっていました。愛猫タマは、そのお経を聞きながら安らかに静かに息を引き取っていました。

ここ1ヶ月ほど、急に体調を壊し闘病生活を余儀なくされていました。あまり苦しまず、父や兄の元へ家族の一員として逝ってしまいました。工房の職人さんも猫派の人達が多く、しん窯家族のアイドル的存在でした。

父還る 愛猫逝く お盆かな
梶原 茂弘

秋立つ日 お経に抱かれ 逝く愛猫
梶原 和子



生前のタマ三郎
(たまちゃん)

戦争と平和

8月6日は広島。8月9日は長崎の原爆投下記念日です。私も昭和19年、前年の生まれですので、原爆投下にも及ぶ戦争の哀れや人間の性など、過去の忌まわしい記憶がよみがえってきます。国益のためとはいえ、なぜ人間は争うようになっているのでしょうか。

大型の風鈴が時々鳴っていますが、お客様から「平和の鐘みたいですね。」と言われ、なぜか嬉しい気分になれました。やきものは平和産業です。世界の戦争が終結しないと、有田の景気も戻りません。

宿根アスターの魅力 by 青花

NHKテレビテキスト趣味の園芸9月号36頁に、青花の植木鉢が登場していました。素晴らしい写真でしたので、うっとりして眺めていました。園芸研究家の小笠原誓先生の監修で、9月23日と28日(再放送)の趣味の園芸番組にも登場するそうです。

小笠原先生父子にお会いするために先月末名古屋園芸を訪ねた折、社長さんやスタッフの皆さんと草花を育てる側から細かいアドバイスを受けました。そして機能性を重視した植木鉢に再チャレンジをしているところです。器は脇役であると思いつつ、主役のことをあまり良く知りません。直接伺って勉強になることばかりでした。草花と器、料理と器、その組み合わせで何倍にも器がひきたてられるので、作り手冥利に尽きます。

NHKの番組で、青花の器だけに気をとられないよう、小笠原先生の講座をしっかりと聴いて見てみたいと思っています。

名古屋園芸ホームページもぜひご覧下さい。 <http://nagoyaengei.co.jp/>

有田の鯛ごまたい

女房の実家の近くにある鮮魚店の後継ぎさんが経営している割烹新松の看板メニュー「鯛ごまたい」が今、静かなブームです。先日お世話になった方へお贈りしましたら、以下のようなお便りをいただきました。

前略、おいしい。おいしい。こんなにも美味しい鯛茶漬をめったに口にすることはできません。家族揃って頂戴しました。ありがとうございました。

というわけで、鯛茶漬に合うちょっと大きめのお父さん飯碗に挑戦中です。

割烹 新松 松本正範さん TEL 0955-43-3698

職人さんのひとりごと

~第11回・川口敏明さん~

しん窯に入社して、細工場というところで働いています。土作りから鑄込み、水ぶき、削り仕上げ、ローラーマシンでの作りなど、品物が素焼になるまでの仕事です。

入社してすぐの頃は、ローラーマシンでのやけどや削りの時に力を入れすぎて品物が飛んでいったりなどの失敗をしていました(今もたまに飛んでいく時もありますが・・・)。皿1枚にしてもいろんな工程と人の手がかかっているの、1枚1枚大事に作り、削りをしていこうと思います。

